

第 15 次共同研究に係る加盟機関及び域内における実践

(後志教育研修センター)

研究内容 1

「授業改善」及び「授業改善を促す校内研究」支援の在り方に関わる学校支援の取組について

(1) 授業改善のための支援

ア 指導と評価の一体化の促進

イ 思考力を育む授業づくりの促進

ウ カリキュラム改善の視点を踏まえた授業づくりの促進

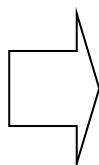
○研修講座「学習指導（基礎）」「学習指導（応用）」の開設

研修講座「学習指導（基礎）」では所員と研究協力校の教員（授業者）が講師となり、主に若手教員を対象に「授業づくりのベーシックオブベーシック」といった内容で講義や演習を行った。授業実践を基に、学習指導や学習規律に関することを伝えるとともに当センター所員の指導技術や指導法についても伝える場を設けた。

研修講座「学習指導（応用）」ではある程度以上の経験年数の教員を対象とし「言語活動の充実」「アクティブラーニング」をキーワードとし講義・授業実践を行った。



講座講師の「板書型指導案例と実際の板書」



受講者のつくった「板書型指導案」

○所員所属校でのメンター研修の実施

年間 3 本の「検証授業」を通して実践的指導力の向上を図るための教職員研修の工夫・改善、授業研究を核とした校内研修の在り方について検証を行った。その際、当研修センター所員の所属校におけるメンターチームによる授業研究を行い、若手教員の実践力向上とミドルリーダーの指導力向上を図るとともに、ワークショップ型研修の推進を行い、組織的な校内研究体制の確立を目指した。次年度は所員の所属校以外の学校へ「メンターチームによる授業づくり」を取り入れた実践を広げていきたいと考えている。



○研究発表・紀要による発信

年に1回研究発表を行い、また年度末に研究紀要を各学校に配付し、管内に当研修センターでの管内各校の「授業力の向上」「校内研究の活性化」へ向けての取組を発信している。

さらに意図的に抽出し

これら2つの関係性を単なる中継りではなく、意図的に行うことで、子どもたちに、思考力、判断力、表現力を与えることができる。また、研究発表の場を通して、教員に気づかせることは、次の通りである。

① 教員・生徒の双方の成長(知識・技能)の向上、共通の成長を促すことによる

a. 子どもの成長(知識・技能)の向上
 b. 子どもの成長(知識・技能)の向上
 c. 子どもの成長(知識・技能)の向上

② 教員を支援し、教師としての成長を促すことによる

a. 子どもの成長(知識・技能)の向上
 b. 子どもの成長(知識・技能)の向上
 c. 子どもの成長(知識・技能)の向上

イ) 学習指導

1時間の学習指導のイメージは、下記の通りである。

基本的な授業の流れ(教科・領域で異なる)をある程度パターン化することで、子どもは、授業の進捗を把握することができる。安心感や自信を持って行うようになり、授業の活性化につながる。

① 導入
 課題設定の場面では、子どもの授業を促して課題をつくること提案し、子どもの学習意欲を高め、自ら課題を解決しようとする意欲を促すことが重要である。早い段階で「もし、〇〇だったらどうだろう?」といった問題意識を高めることが重要である。早い段階で「もし、〇〇だったらどうだろう?」といった問題意識を高めることが重要である。

② 展開
 子どもの学習意欲を高め、自ら課題を解決しようとする意欲を促すことが重要である。早い段階で「もし、〇〇だったらどうだろう?」といった問題意識を高めることが重要である。

③ 評価
 子どもの学習意欲を高め、自ら課題を解決しようとする意欲を促すことが重要である。早い段階で「もし、〇〇だったらどうだろう?」といった問題意識を高めることが重要である。

社会科授業づくりの基本モデル

1. 教科書と教材を基本とした授業づくり

教科書の本文を基本として、教材の活用を重視する。

学習問題と目標、本文の配置と大きさ、本文の読み、学習の方向

2. 教科書を中心とした授業づくり

教科書の本文を基本として、教材の活用を重視する。

教科書の本文を基本として、教材の活用を重視する。

【授業づくり】次に、なぜこのように多くの人が集まったのかを考えた。その理由を説明する。

【授業づくり】次に、なぜこのように多くの人が集まったのかを考えた。その理由を説明する。

【授業づくり】次に、なぜこのように多くの人が集まったのかを考えた。その理由を説明する。

「確かな学力を育成するための授業づくりについて」 「教科書を基本とした各教科の授業モデル」

(2) 校内研究活性化に向けた支援

ア 目的やねらいを踏まえた校内研究の促進

イ 協働的な校内研究体制構築の推進

○研修講座「校内研修」の開設

「研修講座」では、29ある講座のうち「校内研修」と「学習指導」の2講座を当センター所員が講師となり行った。「校内研修」では管内各校の研究担当者など、主にミドルリーダーと呼ばれる世代の先生方を対象に行い、ワークショップ型研修の進め方について実際に授業を参観した後事後研を実践することを通して紹介し、校内研究活性化のための手立ての一つとして提案した。



研究内容2 地域の実情やニーズ、教員のライフステージに応じた「教員研修」支援の在り方に関わる取組について

教員研修の充実に関する支援

ア 専門性の向上に資する講師情報の共有促進

イ 教員のライフステージに応じた研修の促進

ウ 研修講座の実施、運営の充実促進

○研修講座受講計画の作成

研修講座開催要項に右のような「受講計画」を提示し、受講者の実践力向上や学校力向上に寄与できるよう、ライフステージ及びキャリアステージと開設講座の相関が分かるようにしている。

現在自分に必要と思われる講座を選択する際の目安とするとともに、今後の研修の在り方をデザインする際にも活用してもらうことを意識した構成にした。